

# ひびき

## 音楽で落ち着くことに気づく

拓人が3歳のとき、広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）の疑いと診断されました。ひどく多動で、急にいなくなり、警察のお世話になることが何度もありました。家の中でも常に動いていたのですが、唯一音楽が聞こえているとだけは落ち着いていられました。絵をかいても絵本を読んでも興味を示さないのに、私が歌を歌うと一緒に歌いました。

そんな拓人を見て、4歳のとき音楽教室の体験レッスンを受けてみました。しかし、拓人はみんなと同じことはせず、うろうろと動き回ってばかり。まわりから白い目で見られていることにもいたたまれず、あきらめました。その後、

## 音楽が拓人の「特異」を「得意」に変えてくれた

オーティズムミュージシャン研究会 代表

小柳真由美

5歳になってから音楽教室に入り、なんとか座ってピアノに向かえるようになりました。

拓人は絶対音感があり、反復練習が得意で、毎日同じ時間にきっちり練習をはじめました。自閉症スペクトラムの特異性がピアノ練習にはぴったりだったのです。指の番号通り弾くことにもとてもこだわりがあり、そのことが基礎の習得と上達につながったと思っています。

小学校から中学校まで普通級で過ごしました。中度の知的障害があるので、中学では勉強の面ではついていくのが難しかったです。でも、吹奏楽部でフルートに出会えたことは、その後の人生を変えてくれました。

## 障害を受け入れて ピアノを武器に世界へ羽ばたく

15歳になった拓人は、特別支援学校高等部に入学。その頃から私も障害を少しずつ受け入れられるようになりました。障害者のピアノコンクールにも積極的に参加し、「国際障害者ピアノフェスティバル（バンクーバー）」では特別賞を受賞。その後も、世界各地で賞をいただき、世界中の障害のある人と交流し、音楽仲間として



つながっています。

16歳のときには、障害のある演奏家も多数参加するオーケストラ「コバケンとその仲間たちスペシャルオーケストラ」にフルートで参加。NHKテレビ「福祉ネットワーク ぼくと音楽の楽しい関係〜小柳拓人くん」の取材の話もいただきました。このテレビ放映を機会に、拓人の障害を周囲にもカミングアウトし、私も気持ち吹っ切れたのです。

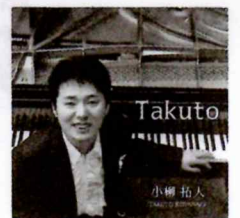
その後、「ピアノ演奏だけでなく子育ての経緯が知りたい」との声を受け、親子で「特異を得意にかえて」と題する講演&コンサートを始めました。子育ての中で自閉症を理解してもらうことが難しいと感じてきた経験から「自閉症ってなに？」と題して、エピソードを交えながら自閉症の特性についてもお話ししています。い

ま、拓人は26歳となり、この講演&コンサートも10年目になりました。小・中学校、大学、音楽教室、福祉団体、企業イベントなどで開催しています。



#### こやなぎ まゆみ

自閉症のピアニスト小柳拓人の母。2010年から、子育て経験を息子の演奏とともに話す「特異を得意に変えて」講演&コンサートを開催。2013年からは「オーティズム(自閉症)ミュージシャンコンサート」を毎年主催。アジア自閉症ピアニスト協会共同代表。息子の拓人は「国際障害者ピアノフェスティバル」特別賞など多数受賞。2019年にCD『Takuto』を発売。<http://koyanagitakuto.com/>



## 特例子会社の正社員として働きながら

15歳のとき、特異な部分を楽器の演奏以外にも生かせないかと考え、パソコン教室に通い始めました。16歳で日本語ワープロ検定1級を取得。高校を卒業後、一般社員の2倍以上の収入スピードを武器に、特例子会社で正社員として働いています。

私が拓人の障害を受容できるようになり、障害者のピアノコンクールへの参加やテレビの取材などを受け、外に出たことで私たちの世界は広がりました。拓人も拍手をもらい、ほめられてうれしそうです。周囲も拓人の障害を理解し、応援してくれました。できないことを悔やむより、できることを伸ばしていこうと強く感じました。障害があるからといってあきらめるのではなく、挑戦することのすばらしさを拓人の姿を通して、伝えていきたいですね。